

牛久：学校周辺に見る自然

第6号

ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小学校）

2011年4月30日発行

< 水辺公園の春 ～ ⑤ ハコベの仲間 >

4/20(水)、ひたち野うしく小4年生の水辺公園、春の生き物観察。今回はハコベの仲間。2ページに渡ります。ハコベは春の七草の一つとしても知られますが、小鳥のえさにもすることを教えてくれたお友だちもいましたね。この仲間はどれも、白い小さな花を咲かせるので見分けが難しいといわれますが、虫めがねがあれば、だいじょうぶ。じっくり観察すると、いろいろな違いが見つかりますよ。

(1) コハコベ（ナデシコ科，ハコベ属）

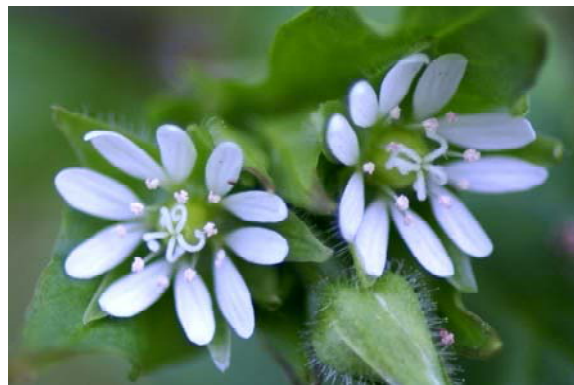


花卉は何枚？ 10枚？ 残念！

5枚でした。10枚に見えますが、5枚がそれぞれ二つに割れてVの字型になっているのです。よく見ると、もとの方がくっついてい

ますね？ ハコベの仲間はまず、この花卉の裂け具合がそれぞれ違っています。それと、雄しべの数も違い、本数に幅があるものもあります。コハコベでは1～7本（写真左の花では5本なのに右のは3本です

(2) ウシハコベ（ナデシコ科，ウシハコベ属）



花卉はコハコベと同じようですね。でも雄しべはやや内側に5本、やや外側に5本で計10本もあります。

雌しべの先も5つに分かれ、ゆるく巻いています。言い

忘れましたが、ハコベの仲間のガクは、どれも5枚です。葉がコハコベよりも大きいので、牛に例えてウシハコベと名づけられたようです。

(3) オランダミミナグサ（ナデシコ科，ミミナグサ属）



これだと、花卉が5枚というのははっきり分かりますね。雄しべは？ 色合いの違うのが5本ずつ、計10本。そして雌しべの先は？ 5つに分かれています

が短く、ウシハコベのように巻いてはいませんね。ガクには腺毛（せんもう）がたくさんみられ、さわるとねばつきます。その名の通り、ヨーロッパからの帰化植物。

(4) ノミノフスマ(ナデシコ科, ハコベ属)



田んぼや畑の縁^{ふち}などの湿った所でよく見られ、コハコベに似ているので、よく観察しないとまちがえることも多いです。花卉は深くVの字型に裂けて、ガクよりもだいぶ長いですね。茎にも葉にも、そしてガクにも毛はなく、雌しべの先は3つに短く分かれます。また、2枚の葉が茎をはさむようにつくことが多いようです。小さな葉をノミのふすま(ふとんのようなもの)に例えて名づけられたそうです。

(5) ノミノツヅリ(ナデシコ科, ノミノツヅリ属)

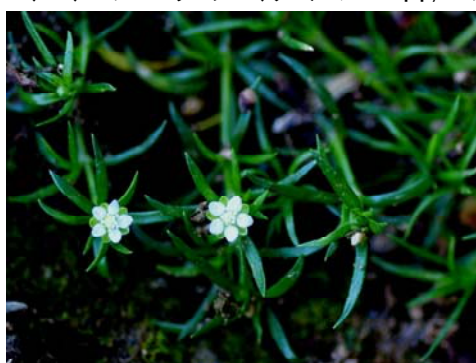


←↑2010/5/6牛久中

空き地などに多く見られます。和名の「ツヅリ」とは着物のことで、小さな葉をノミの着物に例えて名づけられたようです。

ノミノフスマと名前も似ていて、花や葉も小さいですが、こちらは花卉が全く裂けてなく、はっきり5枚ですね。そしてガクよりも短い。雄しべは内側に5本、外側に5本の計10本。雌しべの先は3つに分かれ、ゆるく巻いています。比較的乾燥した

(6) ツメクサ(ナデシコ科, ツメクサ属)



↑ 2010/5/17ひたち野うしく小西 ↑

花は上のノミノフスマに似て、花卉が全く裂けず、はっきり5枚ですが、ガクの先は丸く、雄しべは5~10本(写真は8本)。雌しべの先は5つにやや短く分かれています。また、

背が低くて葉が細いので、スギゴケの仲間かとまちがえられる人もいます。なお(5)ノミノツヅリと(6)ツメクサは今回の観察で見つからなかったもので、昨年別の場所で撮影した写真を使いました。

いかがでしたか? 葉の形や大きさ、毛があるかないかなどの違いもありますが、花を見ればもっとはっきりしますね。肉眼では見分けが難しくても、虫めがねが1本あれば、違いがはっきりします。肉眼で見るのとはまた違った世界が見えてきます。そして、もっと大きく、実体顕微鏡^{じつたい}や生物顕微鏡で観察すると、さらにいろいろな姿が現れ、世界が広がっていきます。まるで天体望遠鏡で星の世界をながめるように…。私は学生の時に、いろいろな種類のコケを顕微鏡でながめていくうちに、すっかりその虜^{とりこ}になってしまいました。虫メガネで、さらに実体顕微鏡で見ると、一つの芸術作品のように感じられ、生物顕微鏡でのぞくと細胞や組織が規則正しい幾何学的な模様を描いていて、なんとも言えない美しさでした。皆さんもその入り口として、観察に虫めがねを持って行きませんか? もちろん道具はきちんと扱い、それで太陽を見たり、光を集めたりはダメですよ。【理科支援員 宮内】